

21世紀のバイオ資材

バイオエース

BioAce <特許申請中>

—— あらゆる動植物有機の分解・有益微生物増殖に ——

<驚異の90億!! 強力微生物群>

日本の土壌微生物の中で、もっとも強力とされる有益菌の中から、長い年月をかけて選別し、バイオ技術で新しく培養されたオリジナルな高度微生物資材です。

あらゆる動植物有機をすばやく、多糖類化、アミノ化すると共に、土壌の有益微生物増殖の種菌として働らく強力菌が、最高の活性を維持して封入されています。(今までの日本で最高とされている微生物資材にくらべ、バイオエースの微生物数は2倍以上……下記参照)

この菌数に注目

糸状菌	M-1.	2.1×10^8	210,000,000個
	M-2.	1.9×10^8	190,000,000個
	M-3.	5.0×10^7	50,000,000個
バチラス属	B-1.	7.0×10^8	700,000,000個
	B-2.	3.0×10^9	3,000,000,000個
	B-3.	4.3×10^9	4,300,000,000個
	B-4.	5.0×10^8	500,000,000個

総計 8.95×10^9 8,950,000,000個 / g (製造時)
(大阪市立工業研究所 生物化学課検定による)

BioAce は、当社の最新設備と新鋭研究陣によって、無菌室で純粋培養し、完全殺菌した培地で均質に、精密な科学的工程によって生産されています。

<裏面の使用方法を御参照下さい>

 **選定品**

(日本農業高度技術研究会)

発売元 **株式会社 ジャット**

21世紀のバイオ資材

バイオエース

BioAce <特許申請中>

—— 堆肥、ぼかし肥料、土こうじ作りに ——

空気中や土の中には、カビやバクテリア等が生息しており、適当な湿度と温度があれば、有機物は徐々に分解されますが、この過程でガスが長期にわたって発生し、ガス障害を起します。

又、チッソ分と炭素分の比率のあった原料で、適確な湿度を保持していても、自然醗酵では完成まで1年以上かかり、「時間」「場所」「手間」等のコストがかかり、作業に間に合わず、良質有機物施用をあきらめなければなりません。

こんな時に、1 g 中90億個（培養直後）の有益微生物群の入ったバイオエースを混合すると、土こうじ、ぼかしで2～3週間、稲ワラ堆肥で40～45日、もみから、よし、山草堆肥で50～60日、バークで90～100日、オガクズで150日程度で完成します。

使用法

堆肥原料、山土等、材料1トンに対し、250 g（1本）の本品と20～30 kgの米ヌカを混合した後、他の原料と混合する。

堆肥の作り方

材 料 名	配合例	水分	切 返 し 時 期	完 成 ま で の 積 算 速 度	完成期間
稲 ワ ラ 乾 燥 鶏 糞 バイオエース・米ヌカ	1,000 kg 150 kg 30 kg	65%	第1回4～5日後 2回目以降 5日間隔	2,500℃ (60～65℃/日に 持続日数を かけて算定)	40～45日
もみから・よし・山草 乾 燥 鶏 糞 バイオエース・米ヌカ	1,000 kg 200 kg 30 kg	〃	第1回7日以内 2回目以降 15～20日間隔	3,000～3,500℃ (—— 〃 ——)	50～60日
バ ー ク 乾 燥 鶏 糞 バイオエース・米ヌカ	1,000 kg 500 kg 30 kg	〃	第1回10～15日以内 2回目以降 20～30日以降	5,500℃ (—— 〃 ——)	90～100日
オ ガ ク ズ 乾 燥 鶏 糞 バイオエース・米ヌカ	1,000 kg 600 kg 30 kg	〃	第1回10～15日以内 2回目以降 20～30日間隔	9,000℃ (—— 〃 ——)	150日程度

土こうじの作り方

A. 山 土 米 ヌ カ	1,000 kg 30 kg	55%	まずAを混合し、水分 を55%にする	2～3日後に、土の 中心温度が50～55 ℃になったら切り返 す 4～5回切り返して 積算温度が800℃に なれば完成です	16～20日
B. 米 ヌ カ カ タ ク リ 粉 お 湯	30 kg 1 kg 40 ㍓		次にBを混合してA の混合物にかけ、よく しみ込ませる		
C. バイオエース・米ヌカ	30 kg		最後にA,Bの混合物に Cをよく混ぜ込む		